

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0992500074		
法人名	特定非営利活動法人 フロレンス那須		
事業所名	認知症高齢者グループホーム ソフィア (びわ棟)		
所在地	栃木県那須郡那須町大字寺子丙104-3		
自己評価作成日	平成24年 3月 8日	評価結果市町村受理日	平成24年5月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成24年 3月 26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症対応型グループホームとして、地域密着という事で近くの中学校と関わりをもったり、地元のボランティアグループを多数受け入れ、利用者が多くの住民と交流を持てるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

間近に那須の山々を望む田園地帯で、近くに中学校と運動公園があり人家や田畑に囲まれた静かな環境にある。法人として2つ目のグループホームであり、過去の実績・経験のノウハウが建物や運営に活かされている。「人を尊重し、人に感謝し、人に真心で接する」という理念を、管理者・職員が共有し実践につなげている。2つのユニットが、くの字型の建物の中にあり、仕切りを置かず開放的な雰囲気になっていて、ゆったりとしたソファと大きなテーブルが置かれ、面会に訪れた人への配慮も感じられる。地元の多彩なボランティアも積極的に受入れ、中学校とも積極的に交流している。食事にも力をいれメニューを毎日公表し、利用者に喜ばれている。災害訓練においても毎月自主的に夜間訓練を実施するなど危機への備えに努めている。また、東日本大震災の被災者も数人受け入れており、社会的な貢献にも理解を示しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に理念を唱和し、また常に見えるところに理念を掲示していることで、職員全員が理念を共有し実践につなげている。	法人理念を、所内に掲示し、毎日の申し送り時や毎月の職員会議の冒頭で唱和し確認している。さらに法人内研修でも全職員で共有を図り、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加し、交流できるように支援している。	元町議の方や民生委員の訪問、地域の多彩なボランティアの協力がある。近くの中学校や近隣の障害児支援組織の行事、広域地区の祭りなどにも参加し、地域との交流に努めている。	開所後間もないホームであることから、地域の人を対象とした講習会の開催や回覧板でのPR、災害連絡網への協力依頼など、今後、地域とのつながりがより深められるような取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座などを開き、認知症の理解、支援の方法などを地域の人々に向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部からの貴重な意見をサービスの向上に活かしている。	地域住民、民生委員、家族代表、市担当職員、地域包括支援センター職員等の参加で、2か月に1回開催し、利用者の状況や事故などの報告、意見交換を行い、結果をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	協力関係を築くように取り組んでいる。	市担当職員は運営推進会議に毎回出席している。定期的な来所もあり、意見や情報の交換ができています。市から依頼され、認知症サポーター養成講座の開催にも協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人ひとりが拘束をしないケアについて確認し、真剣に取り組んでいる。	昨年5月の開所から、施設長を講師とし虐待、拘束の職員内部研修を2回行った。レポートを提出させ、場合により個別に指導している。ネグレクトや言葉での拘束など、職員一人ひとりが自覚するように取り組んでいる。昼間は玄関の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に注意を払い、防止に努めています。		

認知症高齢者グループホームソフィア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を持てるように努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において、利用者の家族に意見を頂き参考にさせていただいている。	運営推進会議や面会、利用料支払いで訪れた際などに家族から意見・要望を聞いている。家族からは感謝の言葉が多いが、意見・要望等は運営の参考にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から意見交換などをし、また毎月の職員会議などで意見や提案を聞く機会を設け反映させている。	毎月の職員会議で職員一人ひとりから必ず意見・提案を聞き、「見守り重視や洗濯時間の変更」など運営改善に反映させている。また、年2回理事長と職員の個人面談を行ない、率直な話の出来る機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回の定例会議により、個々の職員の意見交換することで、向上心を持てるような環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資格取得などの支援をしている。また、研修を受ける機会をできる限り確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の施設と交流できる機会を増やしていきたい。		

認知症高齢者グループホームソフィア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いを理解し、安心できるような信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを理解し、不安を感じさせないように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	しっかりとアセスメントし、対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする者として、できる限り協力して行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族が良い関係を保てるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	なるべく途切れないように支援に努めている。	家族や友人などの面会の度、一緒に写真を撮りアルバムに収め、いつでも見られるようにしている。また、テーブルを余分に用意して面会がいつでもできるように配慮している。近所の方にも顔を出してもらおうよう依頼し、新たな馴染みの関係づくりに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格を考え、関係の理解に努めている。		

認知症高齢者グループホームソフィア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した方との関係性も大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からコミュニケーションをとりながら、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。	入居時に本人や家族から希望を聞いが、入居後も本人から出てくる言葉、行動、表情などからやりたいことなど思いや意向の把握に努めている。無理の無い範囲で声をかけたり色々試しながら興味を示してくれるものの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時やご家族が来所された時に、これまでの生活歴や生活環境を聞き把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が一人ひとりの利用者の現状が把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間でも意見を出してもらい反映している。	本人・家族から意向を聞き、職員間の意見を参考にしながら介護計画を立てている。入居当初は1～2か月間様子を見て計画を見直している。それ以後6か月ごとに施設長、管理者、職員を中心に話し合い、現状に即した計画となるよう見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、気づきを介護計画の見直しに十分に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人に最適なサービスが提供できるように取り組んでいる。		

認知症高齢者グループホームソフィア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町主催のイベントを中心に、積極的に地域資源を利用し、楽しい生活が送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望通りに受診できるように支援している。	かかりつけ医の継続が原則だが、ホームの協力医に変更する利用者が多い。近隣の協力医とは、夜間の緊急時の往診が可能なことや職員が同行し利用者の状態を説明できること、また、服薬の指導が十分受けられるなど緊密な関係となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に利用者様の変化を細かく看護職に伝え、早めの対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の同行、入院中の面会、ご家族様との連絡を密にとりあい、直接医師より話を伺ったり、情報交換をしてより良い関係づくりに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院先の医療チーム、当ホームの協力医療機関、ご家族様とよく協議し、話し合いを重ね、良好な関係を構築している。	重度化や終末期の対応方針マニュアルがあり、入居時に説明している。終末期が近い段階のタイミングで家族と話し合いを行い対応方針を共有し同意書を作成している。これまでに家族の要望に応えて医師の協力のもとに見取りを行った実績が一件あり、今後も希望があれば支援の用意がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行えるようにしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行っている他に、夜勤者2名での模擬訓練を毎月行っている。	年2回消防署立会いで防災訓練を行い、防災の訓練をして貰っている。毎月各棟夜勤者の2名が、夜間防災の模擬訓練(火災発生想定、手順確認、シミュレーションによる避難)を実施している。また、水と食糧の備蓄を行っている。	

認知症高齢者グループホームソフィア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今までの生活環境をよく把握し、言葉使いなどに気をつけ、人格の尊重を優先に生活援助に努めている。	入居者に対して自分の親と同じ愛情を持って、人生の先輩として、他人行儀にはならない敬語を使うなど言葉遣いに注意して声かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者様の意思表示を促す声かけをし、自己決定できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしさを優先しているので、個々のペースに合わせた生活を支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望にあわせて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日メニューを公表し、手伝い等に積極的に参加して頂き、楽しみながら行っている。	食事は、職員がメニューを考え毎日ホワイトボードに公表している。利用者が心待ちするような素材と手を抜かない食事作りを心掛けている。また、調理の一部や盛り付け、食器洗いなど希望者と共に行い、食事も職員と一緒に同じものを楽しみながら食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量を記録し、変化があればすぐに話し合いをに対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、清潔が保持できるように支援している。		

認知症高齢者グループホームソフィア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを常に把握できるように排泄チェック表をつけ、トイレでの排泄ができるように支援している。	チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレに行きたい素振りが見えたら自然に声かけして促している。また、失敗した時には、自尊心を傷つけないように声かけしながら静かに誘導するなど、排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の内容、運動などを考え、毎日手作りのヨーグルトを摂取している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様のタイミングをはかり、より楽しく快適に入浴できるような支援をしている。	利用者の入浴はほとんど1日おきだが、毎日の人もおり、一人ひとりの体調をみて対応している。嫌がる人にも根気強くアプローチすることになっている。季節により菖蒲湯やゆず湯など取り入れたり希望の入浴剤で快適で楽しい入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活のリズムを尊重し、その方に合った休息がとれるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の内容が確認できるようになっており、職員一人ひとりが把握し、確認できるように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った役割や楽しみを持っていただき、張りのある生活が送れるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出する機会を多く設け、気分転換ができるように支援しています。	2～3人ごとの日常の散歩、那須の山への雪見・花見や市外へのドライブなど天気を見て季節を感じてもらっている。また、食材調達と外出を兼ねての買い物など個々に合わせた外出支援を行なっている。	

認知症高齢者グループホームソフィア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を所持し、買い物をする事は殆どないが、お金を所持している事で不安を解消できる方は、少しだけ所持していただき対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望にそって支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく開放感のある空間になっており、季節の感じられる物を飾るなど工夫している。	南からの日差しがあり、優しい照明と季節の飾りや数箇所の加湿器、噴霧器(ウイルス対策)で快適な空間が造られている。大きなソファ、テーブルはくつろぎの場で面会者のことも配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット間の隔たりを無くすことで、より自由に過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の心持により、日々居住空間の工夫をして過ごしやすいよう努力支援している。	ベッドも含めてほとんどの物は家と同じ生活状態でという考えのもとに、家から使い慣れた物を自由に持ち込んでいる。位牌を置く利用者もあり、本人の希望する生活スタイルに沿った支援をしている。ドアには表札はなく、目立たない表示に工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活できる環境づくりに努めている。		